

和歌山だより

2024年 第184号
(令和6年)



串柿の里 四郷（かつらぎ町）

かつらぎ町の四郷地区は、串柿の里として400年以上にわたる歴史と伝統を育んでおり、茜色に輝く玉暖簾が吊るされた風景は、秋の風物詩としてたくさんの観光客を楽しませてくれます。
また、1本の竹串に2個、6個、2個の計10個の柿が刺されており、「いつもにこにこ（2個2個）仲睦まじく（中6つ）」という願いが込められています。
(写真提供：公益社団法人和歌山県観光連盟)

CONTENT

- 1 知事メッセージ p. 1
- 2 和歌山県政トピックス p. 2 ~ 10
- 3 お知らせ p. 11 ~ 19
- 4 ふるさと歳時記 p. 20 ~ 21



紀伊山地の霊場と参詣道 その背景にあるもの

紀伊山地の霊場と参詣道が世界遺産に登録されて20年。記念のイベントをたくさん実施していますが、ここで、世界遺産に登録された意味を振り返ってみたいと思います。

真言密教の高野山、修験道の吉野、大峯、神道信仰の熊野三山は神仏習合の思想によって結ばれています。高野山と丹生都比売神社、熊野那智大社と那智山青岸渡寺などはその象徴です。

西洋思想は、一神教の影響もあり二者択一、「あれか、これか」です。私たちは神仏習合のようにすべてを抱擁し、「あれも、これも」と考えます。このような寛容な精神が、外国人も含めて多くの人々を魅了しています。世界遺産登録の背景にはこのような精神性の豊かさがあります。

お大師様は人と自然は対立するものではなく、人もまた自然の一部であり、あらゆるものとの関係性の中で生かされていると教えてくれています。古来聖地は女人禁制でしたが、熊野は女性を受け入れていました。和泉式部が月の障りのため参詣をあきらめた夜、夢の中に熊野権現が現れ、「もろともに塵にまじわる神なれば月の障りも何か苦しき」と。熊野はジェンダー平等の元祖です。

また、小栗判官照手姫の物語では、歩くことのできない餓鬼阿弥の姿となった小栗が土車で引かれて熊野詣をして元の若武者に戻ります。「よみがえりの聖地」熊野はユニバーサルツーリズムの発祥の地でもあります。

紀伊山地の霊場と参詣道は和歌山の素晴らしい財産であり県民の誇りでもあります。未来に向かってしっかりと受けついでいかなければなりません。

和歌山県知事 岸本 周平



9/21 空飛ぶクルマの実証飛行会場にて

●「わかやまプレ万博」を開催しました!!

2025年大阪・関西万博開催を半年後に控えた10月12日、13日に、万博に向けた県内の機運を醸成するため「わかやまプレ万博」を開催しました。

12日のステージでは、知事と2025年大阪・関西万博催事検討会議共同座長の大崎洋おおさきひろしさんによるトークセッションが行われ、和歌山県の魅力や万博にかける熱い思いなどについてトークが展開されました。さらに、東大発の知能集団 QuizKnock の鶴崎つるさき修功ひさのりさんによる「和歌山クイズ！」も行われました。

13日には、ジャズピアニストで万博シグネチャーパビリオンプロデューサーの中島さち子さんによる音楽と踊りの参加型パフォーマンスや和歌山児童合唱団による合唱が披露されました。

また、両日とも万博会場に設置される「和歌山ゾーン（関西パビリオン内）」出演予定者によるパフォーマンスが披露されたほか、吉本芸人によるライブや和歌山ならではの餅まきも行われました。



ミyakumyakkuも来場



ステージパフォーマンスの様子

そして、イベント会場には、万博会場で県内の地場産業等の歴史や技術を発信する「和歌山 WEEK」に出展する“ものづくり”や“食”に関する各種団体のブースをはじめ、万博会場の紹介ブース等の設置やSDGs、メタバース体験、空飛ぶクルマやロケットの展示など盛り沢山の

内容で、大阪・関西万博公式キャラクターのミyakumyakkuの登場もあいまって、大いに盛り上がりを見せた2日間となりました。

本イベントに参加した方からは、「食やものづくりなど和歌山の新たな魅力をたくさん知った」「万博への興味がとてもわいた」「空飛ぶクルマのVRなど色々な体験ができて楽しめた」などの感想が聞かれました。

県では、更なる機運醸成と大阪・関西万博の成功に向け、引き続き様々な取組を全力で進めていきます。

●和歌山県初上陸！「次世代エアモビリティ（空飛ぶクルマ）」の実証飛行及び機運醸成イベントを開催しました！！

県内での次世代エアモビリティ（空飛ぶクルマ）の社会実装に向け、特に和歌山の将来を担う若い世代に空飛ぶクルマを含む先端技術が身近なものであることを体感いただくとともに、社会受容性の向上を目的として、9月21日に串本町潮岬において、県内では初となる空飛ぶクルマの実証飛行と機運醸成イベントとして高校生プレゼンテーションを開催しました。



望楼の芝の上空を飛行する空飛ぶクルマ

約600人の皆さんが見守る中行われた実証飛行では、全幅約5.7m、全高約1.9m、最大重量220kgで2人乗りの機体を使用し、事前にプログラムされたルートを実証飛行しました。実証飛行を終え、無事所定のポイントに着陸すると皆さんから大きな拍手が起きました。

また、機体は会場に展示され、参加した皆さんが興味津々な様子で機体を眺めたり、機内に乗り込んだりしていました。参加者からは、「空の上、どんなのか見てみたい」「撮った動画を孫にも見せたい」「自分も乗ってみたい」「自動操縦はまだ乗るのが怖い」など様々な感想が寄せられました。



空飛ぶクルマの活用方法について理解を深めました

その後行われた空飛ぶクルマ機運醸成イベントでは、県立串本古座高校宇宙探究コース・CGS部（Community General Support＝地域を包括的に支援するクラブ活動）の皆さんに「私たちが考える空飛ぶクルマの活用とは」をテーマに、「空飛ぶクルマ」をはじめとした未来の先端科学技術が日々の生活にどのように役立つのかを未来予測するとともに、「農林水産業」「観光・レジャー」のユースケースを例に素晴らしいプレゼンテーションをしていただきました。

なお、県では2025年大阪・関西万博に向けた和歌山県の取組を発信するため、9月25日に特設サイトを開設しました。今後、万博会場での催しや具体的なコンテンツなど新たな情報を随時発信していきますので、皆さん是非御確認ください。



特設サイト
QRコード

● 「宇宙シンポジウム in 串本」を開催しました

今年3月13日、現地見学場に約1,400人が来場し、無料web配信では、最大約5.3万人がリアルタイムで視聴するなど全国の多くの方々が見守る中、カイロスロケット初号機が民間小型ロケット発射場「スペースポート紀伊」から打ち上げられました。発射後、飛行中断措置が行われ、ロケットが自律的に機体を破壊させ、残念ながら成功には至りませんでした。挑戦を続ける関係者の方々の姿に多くの方が胸を熱くしたことと思います。



パネルディスカッションの様子

県では、チャレンジングな取組を続けること、失敗を繰り返して改善するプロセスの重要性を知っていただくことを目的として、8月25日に「ロケットは難しい、そしてネクストステージへ」をテーマに「宇宙シンポジウム in 串本」を開催し、約360人が参加しました。



県立串本古座高等学校の皆さんによる発表の様子

今年で6回目となる本シンポジウムでは、今年2月に打ち上げが成功したH3ロケットの開発者であるJAXA理事・宇宙輸送技術部門長のおかだまさし岡田匡史さん、今年1月に世界初の月へのピンポイント着陸を達成した小型月着陸実証機SLIMのプロジェクト担当者であるJAXA宇宙科学研究所教授のさわいしゅうじろう澤井秀次郎さんをはじめ、日本を代表する宇宙関係者の皆さんに講

演やパネルディスカッションを行っていただきました。また、県立串本古座高等学校の生徒の皆さんには、シンポジウムの受付や司会などの運営に加え、活動発表も行ってもらいました。

12月14日にはカイロスロケット2号機の打ち上げが予定されています。県では、引き続きロケット・宇宙に関する情報発信を行い、カイロスロケット打ち上げプロジェクトを県民一丸となって応援するとともに、宇宙機器産業、宇宙ソリューション産業の集積だけでなく、観光業等の活性化、農林水産業の効率化・高度化といった、既存産業の発展も目指していきます。

< 「宇宙シンポジウム in 串本」に御登壇等いただいた方々 >

- ・スペースワン株式会社取締役 遠藤 守氏
- ・東京大学大学院工学系研究科教授 中須賀 真一氏
- ・JAXA理事 宇宙輸送技術部門長 岡田 匡史氏
- ・JAXA宇宙科学研究所教授 澤井 秀次郎氏
- ・和歌山県立串本古座高等学校の皆さん

●和歌山県新総合計画に係る県民総参加プログラムが進行中です！

コロナ禍を経て、人々の暮らしや働き方が見直されるとともに、人口減少・超高齢化の加速、デジタル技術の進展や、脱炭素・循環型社会への構造転換が求められるなど、本県を取り巻く環境が今後も大きく変化していくことが予測されることを踏まえ、これらの変化に的確に対応するため、県政のめざす新たな指針となる総合計画の策定を進めています。

本計画は「長期的な展望と機動性を兼ね備えた二層構造の計画」「社会の潮流（大きな変化・リスク）に真正面から向き合う計画」「未来起点で描く計画」であるという3つの特徴（下図参照）を持っており、計画策定にあたっては、県民や市町村と課題意識を共有し、共感・納得感が得られる内容とするため、県民や県民を代表する県議会と共に創り、市町村との連携・協力を深める計画とすることを重視しています。

県では、様々な機会を通じて、多くの方々と未来の和歌山について一緒に考え、御意見やアイデアを頂くべく、「県民総参加プログラム」を導入し、御意見等を踏まえた実効性のある新総合計画を作り上げていきたいと考えています。

■和歌山県新総合計画の3つの特徴

①長期的な展望と機動性を兼ね備えた二層構造の計画

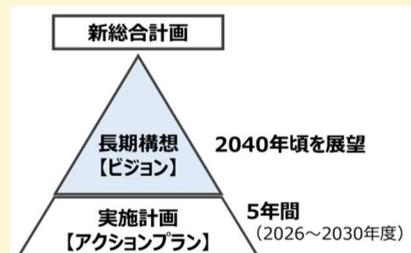
2040年頃を展望した「長期構想【ビジョン】」と、足元の5年間（2026～2030年度）で行う主な施策をまとめた「実施計画【アクションプラン】」の二層構造の計画とし、5年毎に見直しを行うことで、急速に変動する社会情勢に機動的に対応します。

②社会の潮流(大きな変化・リスク)に真正面から向き合う計画

県施策を網羅した総花的な計画ではなく、将来的に直面する大きな変化・リスクを伴う社会の潮流への対応に焦点を絞った内容とします。

③未来起点で描く計画

現在の延長線上の予測される未来を直視したうえで、未来のめざす姿を掲げ、そこに到達するための対策（クリアすべき課題、取組の方向）をバックキャストで構想します。



■県民総参加プログラムの内容

取組	対象者等	取組状況
2040年の和歌山を語る会(熟議)	18歳以上の県民（参加予定者数：177名）	10月～12月：県内9箇所で開催
関係団体との意見交換	分野別の関係団体・グループ（156団体・グループ予定）	10月～11月：意見聴取
市町村との意見交換（市町村長懇談会等）	市町村長・市町村職員	10月7日、8日：意見交換実施
タウンミーティング	市町村別の地域住民（10名程度/回）	随時開催
作文募集【2040年頃のわかやま】	県内在住または県内の学校に通学する小学生高学年・中学生（応募総数：920名）	10月下旬：審査 12月上旬：表彰式
絵画募集【2040年の和歌山県】	県内在住または県内の学校に通学する小学生・中学生（応募総数：76名）	10月上旬：審査 12月下旬：表彰式
データ利活用コンペティション【2040年頃の理想のまち】	全国の高校生・大学生	12月中旬：審査・表彰式

●「第10回アジア・オセアニア高校生フォーラム」を開催しました

県内外の高校生とアジア・オセアニアの国や地域の高校生が集い、全てのプログラムを英語で実施し交流を深める「アジア・オセアニア高校生フォーラム」を7月29日から7月31日の日程で開催しました。

本フォーラムは、参加する高校生たちが、共に世界共通の課題について意見交換、プレゼンテーション等を行うことにより、グローバル社会で活躍できるリーダーを育成することを目的に、2015年度より実施しています。

今年も、県内から16人（11校）、県外から3人（3校）、そしてアジア・オセアニアの11の国と地域から各1人の総勢30人の高校生が参加



全体会の様子

し、2日目の分科会において「津波・防災対策」「ダイバーシティ問題」「貧困問題」の3テーマについて活発な議論を交わしました。その後行われたウェルカムレセプションでは、先の真剣な議論とは一転、とてもリラックスした雰囲気の中で参加者同士の友好を大いに育みました。

そして、最終日の全体会では分科会の意見を取りまとめたプレゼンテーションが行われ、それぞれの課題解決に向けた意欲的な意見交換がなされました。また、和歌山スタディーツアーとして稲むらの火の館（広川町）を訪問し、地震・津波防災対策について学びました。

参加した高校生の皆さんからは、「様々な課題に対する各発表者の問題意識や解決方法を知り、議論する機会を得たことは、とてもよい経験になった」「同室になった参加者や同じカテゴリーの参加者と仲良くなることができた。これからも交流を続けていきたい」「稲むらの火の館のツアー



稲むらの火の館にて

では、日本の防災の歴史や対策を知ることができ、分科会で議論し、得た知識や課題を自分の中で更に深めることができた」などの感想が聞かれました。

今回も参加者の皆さんにとって、様々な交流を通じて国内外に友人ができるとともに、大いに学ぶことができた大変有意義なフォーラムとなりました。

●中華人民共和国（山東省・四川省・北京市）を訪問しました

岸本知事は、7月21日から26日の日程で中華人民共和国を訪問しました。

山東大学訪問

■日 時：7月22日（月）10時30分～13時30分

■場 所：山東大学

知事が2002年に客員教授に任命され、講義を行った山東大学を訪問しました。同大学経済学院において記念講演を行い、日本経済低迷の要因、和歌山県の財政構造などを説明した他、和歌山県の観光案内を行いました。



山東大学で記念講演を行う知事

また、同大学と提携協定を結んでいる和歌山大学の本山貢学長同席のもと、李学長との意見交換を行いました。同大学は、和歌山大学に加え、和歌山県立医科大学とも提携し、多くの留学生を受け入れており、今後、更に交流を促進していくことで合意しました。

大衆日報社訪問

■日 時：7月22日（月）14時00分～15時00分

■場 所：大衆日報社

今年4月に和歌山新報社と友好協力の覚書を締結した、大衆日報社を訪問しました。

和歌山新報社の津村周社長同席のもと、大衆日報社の事業内容の説明を受けた後、本県と山東省の提携40周年特別番組のインタビューを受けました。



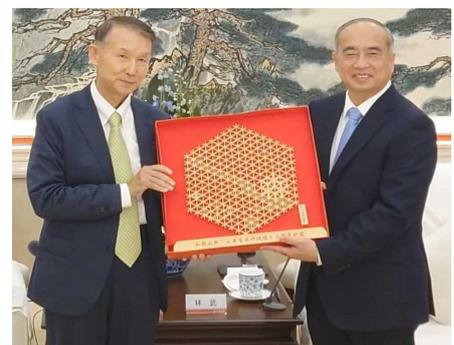
大衆日報社訪問の様子

山東省林武書記との友好提携40周年記念会談

■日 時：7月22日（月）17時30分～18時00分

■場 所：山東大厦

山東省とは、これまで環境、経済貿易、文化芸術、観光など様々な分野で交流してきたことを再確認するとともに、今後、大学間の交換留学生をはじめ青少年交流に今まで以上に力を入れていくことで合意しました。



知事と山東省林武書記

友好提携 40 周年記念レセプション

■日 時：7月22日（月）18時00分～20時00分

■場 所：山東大廈

4月に来県した白玉剛常務委員の歓迎挨拶の後、知事が答礼のスピーチを行いました。40周年を機会に、更に友好関係を深化させていく重要性について述べました。

知事による答礼スピーチの様子



四川省施小琳省長との会談

■日 時：7月23日（火）17時00分～17時30分

■場 所：成都香格里拉

四川省とは、2022年に友好県省関係を締結し、これまで「パンダ」及び「防災」の分野で連携してきました。今後は青少年交流や新エネルギーの分野でも、協力関係を強めることで合意しました。

施小琳省長との会談の様子



成都ジャイアントパンダ繁殖研究基地訪問

■日 時：7月24日（水）10時00分～13時00分

■場 所：成都ジャイアントパンダ繁殖研究基地

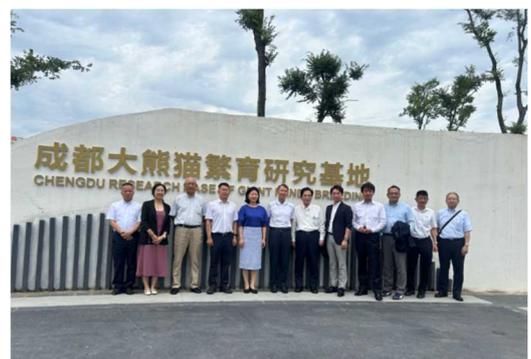
知事は、アドベンチャーワールド関係者と共に成都ジャイアントパンダ繁殖研究基地を訪問しました。

成都ジャイアントパンダ繁殖研究基地とアドベンチャーワールドは、1994年より「ジャイアントパンダ長期国際共同繁殖研究」を実施しています。これまでに17頭のパンダを育成し、中国に帰国した13頭のうち4頭のパンダが20頭以上の子孫を残すなど、共同繁殖研究の中では最も多くの繁殖実績を上げており、今年9月で共同繁殖研究30周年を迎えました。

基地内では、永明一族の視察を行うとともに、パンダ基地管理者と共同繁殖研究の更なる発展に向けて意見交換を行いました。



成都ジャイアントパンダ繁殖研究基地訪問の様子



関係者の皆さんとの記念撮影

四川省防災・減災教育館視察

■日 時：7月24日（水）13時45分～14時45分

■場 所：四川省防災・減災教育館

死者7万人、負傷者37万人を出した2008年の四川大地震を教訓とするため建設された、四川省防災・減災教育館を視察しました。広大な建物の中に、災害体験、災害啓発、防災救助エリアに加え児童体験エリアもあり、在重慶日本国総領事館、四川省対外友好協会などが2016年から毎年開催している日中防災減災シンポジウムの重要性を再確認しました。



四川省防災・減災教育館訪問の様子

自治体国際化協会北京事務所訪問

■日 時：7月25日（木）9時45分～10時15分

■場 所：自治体国際化協会北京事務所

自治体国際化協会北京事務所を訪問し、近松茂弘所長と意見交換を行いました。同協会の海外事務所では県職員がお世話になっており、グローバル人材の育成に貢献いただいております。今回の訪中での支援に感謝の意を述べるとともに、今後の更なる協力を依頼しました。



自治体国際化協会北京事務所訪問の様子

在中国日本国大使館訪問

■日 時：7月25日（木）10時45分～13時00分

■場 所：在中国日本国大使館

金杉憲治駐中国日本国大使（特命全権大使）を訪問しました。本山貢和歌山大学長、添田隆昭高野山大学長、同席のもと、今回の訪中日程等について説明しました。同大使からは、中国では、AIや自動運転、ドローンなどの技術革新が進んでいることなど、中国の政治経済の現況について説明を受けました。



知事と金杉駐中国日本国大使（中央）

清華大学訪問

■日 時：7月25日（木）14時00分～20時00分

■場 所：清華大学

清華大学日本研究センター（李廷江主任）と和歌山大学、高野山大学とのフォーラムに出席し、添田隆昭高野山大学長の空海に関する基調講演や清華大学側の南方熊楠の研究成果等について拝聴しました。

また、同大学の邱勇書記と会談し、今後人材交流を進めることで合意しました。



知事と清華大学邱勇書記（中央）

●企業立地の実績について（7月～9月）

本県の企業立地等の取組について、7月～9月の実績を御紹介します。

引き続き、本県のビジネス環境と生活環境の良さを多くの企業にPRし、本県への企業誘致を進めていきます。

株式会社玉林園

株式会社玉林園は、世界初の抹茶ソフトクリーム「グリーンソフト」や「てんかけラーメン」などの食品製造販売のほか、「グリーンコーナー」の名称で飲食店事業を行う会社で、幅広い世代に親しまれ、テレビ番組等多くのメディアに取り上げられています。

また、近年では、大手外食チェーン店やテーマパーク向けのアイスクリーム等の受託製造を手がけるなど、その販路を広げています。

今回、グリーンソフトの製造や受託製造の更なる増加が見込まれることから、生産能力を拡大・効率化するため、新たに第三工場を増設する運びとなりました。

■企業概要

企業名：株式会社玉林園

代表者：代表取締役 林 和宏 氏

創業：1854（安政元）年

設立年月：1956（昭和31）年6月1日

資本金：2,400万円

売上高：17億6,951万円（2024年4月期）

従業員数：144名（正社員70名、非正社員74名）

事業所：本社工場、第二工場、飲食店舗、お茶道具販売店舗

事業内容：ソフトクリーム原液等の食品製造業、レトルト食品等の卸売業
飲食サービス業、茶葉・茶道具の販売業



■立地計画概要

進出場所：和歌山市出島60番地1

敷地面積：2,534㎡（延床面積：2,861㎡）

雇用予定：新規地元雇用者 正社員10名（3年間）

事業内容：グリーンソフト等アイスクリームの製造

投資額：約6億4,000万円（建物・機械設備等）

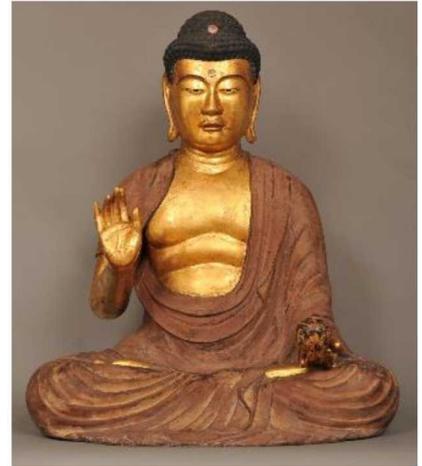
操業時期：2026（令和8）年3月操業開始予定



●世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録20周年記念特別展「聖地巡礼―熊野と高野―」の第Ⅲ期を開催中です

前号の「和歌山だより」でも御案内しましたが、県立博物館では、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録20周年を記念して、特別展「聖地巡礼―熊野と高野―」を開催しています。

熊野三山や高野山といった霊場以外にも、熊野参詣道の紀伊路・中辺路沿いには、熊野の御子神を祀ったとされる王子社をはじめ、西国三十三所霊場第二番札所の紀三井寺（和歌山市）のほか、地蔵峰寺（海南市）、得生寺（有田市）、興国寺（由良町）、道成寺（日高川町）、鬪雞神社（田辺市）など様々な霊地・霊場があり、参詣者はそれらの寺社に立ち寄りながら旅をしました。本展示では、昔の旅人たちも見たであろう、寺社の名宝の数々を紹介します。



三重県指定文化財 薬師如来坐像
(真蔵寺蔵) 【通期展示】



重要文化財 法燈国師像
(興国寺蔵) 【後期展示】

紀伊半島西部の海岸沿いに、田辺から那智山・新宮へと向かう大辺路は、勾配もある厳しい道ではあるものの、海岸を見ながら行く風光明媚な道で、江戸時代に大辺路を旅した人は「無双の絶景」とも評しています。そして、熊野の自然に触れて様々な美術作品も生み出されました。紀南の寺院に数多く残る長沢蘆雪の作品などを交え、大辺路の雄大な自然と風景、そして沿道の信仰の様相についても紹介します。

また、室町時代以降、庶民による伊勢参宮と西国巡礼が盛んになり、伊勢路は伊勢参宮後に熊野へと向かう道として本格的に利用されるようになりました。伊勢路の歴史と共に、伊勢参宮・西国三十三所巡礼・熊野参詣など、複雑に絡み合った信仰と参詣の文化を紹介します。伊勢路を知ること、紀伊路・中辺路、大辺路の性格や魅力についても再発見していただけたらと思います。

旅人氣分で、博物館で紀伊半島の“霊場めぐり”をしてみませんか？

会 期 11月24日（日）まで
開館時間 9時30分～17時（*入場は16時30分まで）
休 館 日 毎週月曜日（ただし、11月4日は開館）、11月5日（火）
入 館 料 一般1,000円(800円)・大学生800円(600円) * ()内は20名以上の団体料金
 *高校生以下、65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方、県内在学中の留学生は無料
 *11月16日（土）、17日（日）、22日（金）は入館料無料
 *会期の前期(10/12～11/4)、後期(11/6～11/24)で一部の作品の展示替えを行います。

●世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録 20 周年記念特別展「仙境 南画の聖地、ここにあり」を開催中です

世界遺産登録 20 周年を記念し、県立近代美術館など県内 3 会場で、特別展「仙境 南画の聖地、ここにあり」を開催しています。

南画とは、中国絵画に影響を受けて江戸時代に成立した、主に山水や花鳥を描く絵画です。中国の高官が余技としてたしなんだ文人画や、中国江南地方の温暖な風景を柔らかな筆づかいでとらえた南宗画を起源とするもので、江戸中期から人気を博したのち、明治期以降の美術界でも独自の展開をみせました。山と水に恵まれた和歌山は、しばしば中国古典に登場する「仙境」と重ねられ、江戸時代から文人たちの詩や絵画の主題となってきました。そして、近代においても、数多くの南画家が和歌山をめぐって作品を描いており、和歌山はいわば南画の「聖地」でした。



富岡鉄斎《寿山福海図》1899年 清荒神清澄寺 鉄斎美術館

本展覧会では、特に和歌山及び京都、大阪を中心とする関西に注目して、近代日本において南画と向き合った画家による優品の数々を紹介します。和歌山県立近代美術館では、江戸期の和歌山、そして明治から戦前期までの関西を中心とする南画の展開をたどります。田辺市立美術館では、和歌山ゆかりの南画家とその多彩な作品を紹介し、熊野古道なかへち美術館（田辺市立美術館分館）では、和歌山の風景を描いた作品を展示します。

この機会に、和歌山の豊かな自然を見つめ直すとともに、それらに通じる南画の清らかな世界観を是非御覧ください。

桑山玉洲《雪山吟客図》1798年

公益財団法人脇村奨学会（田辺市立美術館寄託）

画像は全て県立近代美術館会場での展示作品です。

《開催概要（県立美術館）》

会 期 11月24日（日）まで

開館時間 9時30分～17時（*入場は16時30分まで）

休 館 日 毎週月曜日（ただし、11月4日は開館）、11月5日（火）

観 覧 料 一般800円(640円)・大学生500円(400円) * () 内は20名以上の団体料金

* 高校生以下、65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方、県内在学中の留学生は無料

* 11月16日（土）、17日（日）は「関西文化の日」により無料

* 11月22日（金）は「和歌山県ふるさと誕生日」により無料

* 11月23日（土）は「紀陽文化財団の日」として大学生無料

● 秋期特別展「数多の古墳を築く―群集墳からよむ古墳時代―」を開催中です

県立紀伊風土記の丘では、秋期特別展「数多の古墳を築く―群集墳からよむ古墳時代―」を開催しています。

小規模な古墳が狭い範囲に密集して築かれた古墳群を、「群集墳」と呼びます。^{ぐんしゅうふん}近畿地方では6・7世紀に、横穴式石室などを埋葬施設とする小型円墳が約100基から1,000基以上密集する大規模群集墳が形成されていますが、これらの群集墳は、中間層の人々が力を伸ばしたことやヤマト王権が地域支配を強化したことを背景に出現したと考えられています。



大日山35号墳(和歌山市)巫女形埴輪
【重要文化財・和歌山県教育委員会蔵】

一方、和歌山県立紀伊風土記の丘が所在する特別史跡岩橋千塚古墳群（和歌山市）は、総数約900基の古墳が築造され、全国最大級の群集墳と考えられています。しかし、九州との繋がりを示す岩橋型横穴式石室や、前方後円墳である

首長墓と小型円墳が同じ墓域に分布することなどは他の群集墳とは異なり、強い個性が認められます。

本展では、重要文化財の大日山35号墳出土品をはじめとする特別史跡岩橋千塚古墳群の出土品を、初公開資料を含めて紹介するほか、ヤマト王権が所在した畿内地域にある史跡高安千塚古墳群（大阪府八尾市）、史跡一須賀古墳群（大阪府河南町）、史跡巨勢山古墳群（奈良県御所市）、龍王山古墳群（奈良県天理市）など代表的な6・7世紀の群集墳とその出土品などを紹介し、古墳時代後半期に群集墳が出現した歴史的背景と和歌山県の特徴を探ります。



龍王山古墳群(天理市)単鳳環頭大刀
【奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵】

なお、11月17日（日）にはシンポジウム「畿内と紀伊の群集墳からよむ古墳時代社会」を実施しますので、皆さん是非お越しください。

会 期 12月8日（日）まで
開館時間 9時～16時30分（*入館は16時まで）
休 館 日 毎週月曜日（ただし、11月4日は開館）、11月5日（火）
入 館 料 一般360円(290円)・大学生220円(160円) *（ ）内は20名以上の団体料金

<シンポジウム「畿内と紀伊の群集墳からよむ古墳時代社会」>

日 時 11月17日（日）13時～16時30分 討論司会/仲辻 慧大氏（和歌山県教育庁）
「群集墳と古墳時代社会」 太田 宏明氏（河内長野市教育委員会）
「副葬品からみた群集墳の被葬者像―畿内地域を中心に―」 絹島 歩氏（奈良県立橿原考古学研究所）
「紀伊地域における6・7世紀の群集墳の展開」 萩野谷 正宏（当館）

会 場 和歌山県立紀伊風土記の丘 定員 60名（要事前予約・先着順）

参加費 無料（無料開放の日） 別途シンポジウム予稿集を販売予定

申込方法 11月1日（金）13時～ 当館ホームページ（申込フォーム）、電話または資料館受付

●和歌山県公式観光サイトをリニューアルオープンしました！

県では、オウンドメディアでの発信力を強化するとともに、プロモートの質の向上を図るため、和歌山県公式観光サイトをリニューアルしました。

和歌山旅に必要な情報を、より見やすく、シンプルに、タイムリーに入手できるようにになりましたので、皆さん是非御利用ください。

ページコンセプト

- 1 観光客目線に立った機能性の向上
- 2 「聖地リゾート！和歌山」のブランディング価値の向上

リニューアルの概要

①ユーザービリティの向上

- ・利用者が検索しやすい表示
ヘッダーに利用頻度の高い「特集」「モデルコース」「グルメ」「アクティビティ」「祭り・イベント」や「高野山」「熊野」など和歌山ならではのメニューをまとめて配置
- ・アクセスランキングを新設（毎日更新）
直近7日のアクセスランキングにより和歌山の人気観光情報をリアルタイムで提供
- ・関連情報の表示
各情報ページに、関連情報（周辺の立寄・グルメスポット、モデルコースなど）を表示することで、利用者の利便性と観光意欲を高める
- ・タイムリーな情報発信
「祭り・イベント」情報は、アクセス権限を市町村等に付与し、迅速に情報を登録・更新

②多言語サイトとの効率的かつ整合性のあるデータ連携

- ・多言語サイト「Visit Wakayama」と写真・位置情報（緯度経度）を共有することで共に最新情報を掲載

③イメージカラーの統一

- ・「聖地リゾート！和歌山」ロゴカラーを随所に使用し、統一感の演出とイメージの定着を図る



ページQRコード



ページのイメージ

●東京ミッドタウン日比谷のレストランにて和歌山県産食材を使ったメニューを提供中です!!

県では、わかやま産ブランドの向上と販路開拓を目的に、外食店への県産品採用に向けた提案活動を行っています。この度、12月1日までの期間限定で、株式会社バルニバービが運営する「DRAWING HOUSE OF HIBIYA」にて、和歌山県にフォーカスした『日本テロワールメニュー』が提供されています。

シェフ自ら産地を訪問して食材を選び抜き、その食材のパフォーマンスを最大限に活かした日本テロワールメニューを是非この機会にお楽しみください。

<メニュー（例）>

写真提供：DRAWING HOUSE OF HIBIYA

◆コース（ディナー）

- アミューズ
- 和歌山県産マグロとピーズのタルタル
アボカドのテリーヌと梅肉とピーズのソース
- 和歌山県産紀州猪のラビオリ舞茸のコンソメ
- 和歌山県産紀州甘鯛の鱈焼き発酵トマトハーブ
- 和歌山県産熊野牛の炭火焼き秋の香りをまとわせて
- 和歌山県産山椒ノンホモミルクジェラート…Avant Desserre
- 和歌山県産今美味しい果実のシブースト…Grand Desserre
パン・ハーブティー付き



◆アラカルト

- 熊野牛と黒豆のテリーヌ紀州梅干と
グリーンマスタードのソース
- アオリイカの炙りとマッシュルーム、フィンガーライム
茄子のピューレと生山椒とパセリのクーリ
- 紀州梅どりのアヒージョ
- 紀州ジビエのナヴァラン雪室じゃがいものニョッキ
- 熊野ポークのロースト山椒のソース
- ノンホモ牛乳のミルクプリン有田みかんソース
- 味噌フィナンシェなど



*仕入れ状況により料理の内容や、食材の産地が一部変更になる場合もあります。



9月13日（金）には和歌山県PRキャラクターの「きいちゃん」がお店を訪れ、御来店のお客様に和歌山県の魅力を元気いっぱいPRしました!!



◎株式会社バルニバービ
レストラン事業と食による地方創生に取り組むエステートビルドアップ事業を営む。
グループ全体で全国100店舗以上のレストランやホテルを運営。



HP

◎DRAWING HOUSE OF HIBIYA
日本全国本当に美味しい食材の再発見にチャレンジし、「体感するニッポンのテロワール」がコンセプトのレストラン&ティールーム。
本当に美味しい食材を昇華させた料理が楽しめる。



HP

Instagram

●「企業版ふるさと納税」で和歌山県の取組を応援しませんか？

企業版ふるさと納税とは、企業の皆様が寄附を通じて地方公共団体の地方創生プロジェクトを応援した場合に、税制上の優遇措置が受けられるほか、様々なメリットがある仕組みです。

和歌山県では、この制度を活用し県の地方創生の取組を応援していただける企業の皆様を募集しています。

企業版ふるさと納税とは

- 「企業版ふるさと納税」は、国が認定した地域再生計画に位置付けられる**地方公共団体の「地方創生プロジェクト」**(*)を応援するために企業様が寄附を行った場合に、法人関係税から税額控除する仕組みです。
*和歌山県の「地方創生プロジェクト」(2024年度)は次ページに掲載しています。
- 損金算入による軽減効果(寄附額の約3割)を含め、最大で**寄附額の約9割にあたる法人関係税が軽減**され、実質的な企業様の負担が約1割まで圧縮されます。

【税軽減のイメージ】



*本制度を活用できるのは、**和歌山県外**に本社がある企業様のみです。

*1回当たり**10万円以上**の寄附が対象です。

*寄附を行うことの代償として経済的な利益を受けることは禁止されています。

企業様のメリットについて

- 社会貢献に取り組む企業としての**PR効果**が期待できます！
- 企業様と県との間で、**新たなパートナーシップ構築**の可能性が広がります！
- 県をはじめ、地方創生プロジェクトに関わる多様な主体との新たな関係構築の可能性が広がります！

詳細はこちらから

⇒<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/020200/d00204504.html>

お問い合わせ先：和歌山県 地域振興部 地域政策局 地域振興課 地域支援班
TEL：073-441-2426



2024年度和歌山県のプロジェクト一覧

成長志向創業者の育成・支援による地方創生

(概要)

「起業家が起業家を生み育てる」をコンセプトに、成功した起業家が次の起業家を育成・支援



(事業年度)

2022年度～2024年度

大阪・関西万博を見据えた
「新たな旅のスタイル」普及・促進

(概要)

デジタル・アウトドアを主眼にした「新たな旅のスタイル」の普及・促進



(事業年度)

2022年度～2024年度

ポストコロナ時代の若者就職支援による
県内定着・移住促進

(概要)

高卒就職者の県内定着や大学生・第二新卒者等のUターン就職による本県への移住を促進



(事業年度)

2022年度～2024年度

わかやま地域の賑わい総合対策プロジェクト

(概要)

ワーケーションの受け入れ強化や、多様なニーズに応じた移住・定住に取り組む



(事業年度)

2020年度～2024年度

最南端から最先端へ！民間ロケット発射場を
核とした地方創生プロジェクト

(概要)

ロケットの打上げ応援イベントの実施や企業と連携したプログラミング教育による高度人材の育成



(事業年度)

2022年度～2024年度

明日へつなく持続可能な農林漁業の実現に
向けた好循環創出プロジェクト

(概要)

地域の魚介類、ジビエを地域で消費・利益を還元させる生産と消費の好循環を創出し、農林漁業と地域の持続可能性を高める



(事業年度)

2023年度～2024年度

教育旅行向けほんまもん体験事業者等支援

(概要)

体験型観光事業者の受入体制の強化、安全施策等に資する設備・備品の設置や県外学校等に対する誘客・持続可能な受入環境整備の促進



(事業年度)

2023年度～2024年度

和歌山こどもまんなか社会推進プロジェクト

(概要)

多子世帯向け保育料等の支援やこども食堂への支援等を行い、子育てしやすい環境づくりやこどもの居場所づくりなど、こどもにやさしい社会づくりに取り組む



(事業年度)

2023年度～2024年度

「空飛ぶクルマ」の運航実現に向けた取組

(概要)

「空飛ぶクルマ」の運航実現に向け、離着陸場の適地調査や県内の社会受容性向上のために、県民や事業者に向けた情報発信、実証実験に取り組む



(事業年度)

2023年度～2024年度

(*)

大阪・関西万博教育旅行参加支援

(概要)

和歌山県内の小中学生が、学校行事の一環として万博に訪れる機会を持てるよう、万博入場料及び地域ごとに差違のあるバス料金を同額の負担とすべく支援を行う



(事業年度)

2024年度

<万博会場イメージ図>
(提供：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会)

多様な人材の活躍・共生促進

(概要)

外国人材など様々なバックグラウンドを有する優秀な人材がやりがいと魅力を感じ、安心して働くことができる環境を創出することで、県内の就職と地域への定着を促進し、労働力不足の解消を図る



(事業年度)

2024年度

県アンテナショップ「わかやま紀州館」
を活用した首都圏への県産品の魅力発信

(概要)

首都圏における県産品の販路開拓や魅力発信の強化に取り組む



(事業年度)

2024年度

●ふるさと和歌山応援寄附（ふるさと納税）の御案内

ふるさと和歌山応援寄附は、「ふるさと和歌山を大切にしたい」、「和歌山を応援したい」という思いを具体化するための制度です。これまで多くの御寄附と力強い応援メッセージを頂いております。

県では、ふるさと和歌山応援寄附を「世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』の保全や活用」や「子育て支援の充実」、「がん対策の充実」などの分野で活用させていただいております。

御寄附につきましては、下記のお問合せ・申込窓口に御連絡いただくか、ふるさと納税総合サイトを御利用ください。

また、和歌山県外にお住まいで13,000円以上の御寄附を頂いた方には、和歌山県優良県産品（プレミアム和歌山）として県が認定した商品等のうち、事業者の協力を得て選定した返礼品をお選びいただけます。和歌山県が誇る優良産品を是非御堪能ください。

ふるさと和歌山応援寄附についての詳細は、和歌山県のホームページ上の「ふるさと和歌山応援サイト」に掲載しています。

これからも、ふるさと和歌山応援寄附に御協力いただきますようお願い申し上げます。

ふるさと和歌山応援サイト(和歌山県へのふるさと納税)

「ふるさと」と聞いてみなさんが想像するものは何でしょう。
和歌山県では、「元気な和歌山」を創造していくため、さまざまな施策の推進に取り組んでいます。
ぜひ、皆様も寄附を通じてふるさと和歌山を応援してください。



ふるさと和歌山応援サイト

検索

各ポータルサイトのQRコードはこちら



ふるさとチョイス



ふるなび



ANAのふるさと納税



ふるラボ



JALふるさと納税



さとふる

★お問合せ・申込窓口★

〒640-8585

和歌山市小松原通一丁目1番地

総務部総務管理局税務課

担当 大亦、山中、水内、西浦

電話 073-441-2186（直通）

FAX 073-423-1192

E-mail: furusato-ouen@pref.wakayama.lg.jp

★お問合せ窓口★

〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-3

都道府県会館12階

和歌山県東京事務所

担当 松場

電話 03-5212-9057

FAX 03-5212-9059

●ふるさと和歌山応援寄附を活用して行う県の取組

- ①生涯スポーツ・文化の振興
- ②こどもたちの教育環境の充実【お礼の品なし】
- ③がん対策の充実
- ④犬・猫の殺処分ゼロを目指す活動への支援
- ⑤世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の保全や活用
- ⑥南紀熊野ジオパークの推進
- ⑦地元企業への就職を促進する奨学金返還支援
- ⑧学校図書館や県立図書館の蔵書の充実
- ⑨わかやまの美しい海づくり
- ⑩わかやまの文化財の保護
- ⑪大切なふるさとの森を守り育てる
- ⑫わかやまのナショナル・トラスト
- ⑬わかやまの農林水産業の振興
- ⑭子育て支援の充実
- ⑮大阪・関西万博教育旅行参加支援



皆様からいただいた寄附金の成果につきましては、「ふるさと和歌山応援サイト」などで報告させていただきます。

■寄附金控除の手続きについて（ワンストップ特例申請の御案内）

地方公共団体への寄附（ふるさと納税）については、税制上の優遇措置があります。寄附金額のうち、自己負担額の2,000円を超える部分について、一定限度額まで、原則として所得税（復興特別所得税を含む）及び個人住民税から全額が控除されます。

寄附金控除を受けるには、所得税の確定申告又はふるさと納税ワンストップ特例制度の申請が必要です。

*ワンストップ特例申請の場合は、所得税の軽減相当額を含め、個人住民税からまとめて軽減を受けることになります。

和歌山県では、ワンストップ特例申請の手続きを、より簡単・便利に行えるよう完全オンラインでのサービスを提供しています！

マイナンバーカードをお持ちの方は、紙のワンストップ特例申請書・確認書類の提出は不要となり、「自治体マイページ」から即座に申請を完結させることが可能です。

- *申請にはデジタル庁提供のマイナポータルアプリが必要です。
- *自治体マイページとは、ふるさと和歌山応援寄附に寄附したふるさと納税に関する情報を一元管理できる寄附者個人の専用ページです。

（自治体マイページは、株式会社シフトセブンコンサルティングが提供するサービスです。）



寄附金控除の手続きやオンラインワンストップ特例の詳細については、「ふるさと和歌山応援サイト」内「寄附金税制について」のページを御確認ください。



* 最新の情報は、主催者等へお問い合わせください。



イベント情報（11月～2025年1月）

開催日・時期	行事名	場所	問い合わせ先
11月1日 ～30日	きのくに文化月間	和歌山県内全域	県庁文化学術課 073-441-2052
11月8日 ～10日	第18回田辺・弁慶映画祭	紀南文化会館 (田辺市)	田辺・弁慶映画祭実行 委員会事務局 0739-26-9929
11月10日	第22回和歌山ジャズマ ラソン	和歌山マリーナシ ティ (和歌山市)	和歌山ジャズマラソ ン実行委員会 073-435-1364
12月18日	しまい観音	紀三井寺 (和歌山市)	紀三井寺 073-444-1002
12月31日	第29回南紀白浜2024 to 2025 カウントダウン 花火	白良浜 (白浜町)	白浜町商工会青年部 0739-42-4686
12月中旬	STARPARTY in KIMINO ふたご座流星群観望会	星の動物園みさと 天文台 (紀美野町)	紀美野町観光協会 073-488-2611
1月15日	管祭（小豆粥占い）	隅田八幡神社 (橋本市)	隅田八幡神社 0736-32-0188
1月25日	初天神	和歌浦天満宮 (和歌山市)	和歌浦天満宮 073-444-4769
1月上旬	奥之院・金堂修正会	奥之院 燈籠堂 壇上伽藍 金堂 (高野町)	総本山金剛峯寺 0736-56-2011
1月中旬	仙人風呂 「新春かるた大会」	川湯温泉仙人風呂 (田辺市)	熊野本宮観光協会 0735-42-0735
1月下旬	本州最南端の火祭り 望楼の芝焼き	潮岬 (串本町)	南紀串本観光協会 0735-62-3171

自然・風物情報（11月～2025年1月）

時期	自然・風物名	場所	問い合わせ先
11月上旬	有田みかん出荷始まる	JA ありだ (有田市)	JA ありだ 0737-53-2311
	ジャバラ収穫始まる	北山村	北山村観光協会 0735-49-2324
11月中旬	串柿づくり最盛期	四郷地区 (かつらぎ町)	かつらぎ町観光協会 0736-22-0300
	福定の大銀杏見頃	田辺市中辺路町	中辺路観光協会 0739-64-1470
11月下旬	紅葉見頃（県内各所）	紅葉溪庭園 (和歌山市) 奇絶峡、発心門王子 (田辺市) 瀨峡 (新宮市)	和歌山城整備企画課 073-435-1044 田辺観光協会 0739-26-9929 熊野本宮観光協会 0735-42-0735
		センリョウの収穫	真妻地区 (印南町)
12月上旬	布引だいこん出荷最盛期	和歌山市布引	海草振興局 農業水産振興課 073-441-3382
12月下旬	ポンカンの収穫ピーク	重畳山地区 (串本町)	JA 紀南 0739-23-3450
1月上旬	新春初泳ぎ	田辺扇ヶ浜海水浴場 (田辺市)	田辺観光協会 0739-26-9929
1月下旬	スイセン見頃	檜野崎灯台周辺 (串本町) 白崎海岸 (由良町)	南紀串本観光協会 0735-62-3171 由良町産業振興課 0738-65-3850

～編集後記～

ようやく秋らしい季節がやってまいりました。一月遅れのような季節の移り変わり
で、長らく続いた夏のような暑さに、うんざりされたことと思いますが、皆様いかがお
過ごしでしょうか。

さて、この「和歌山だより」ですが、3ヶ月に一度、季節ごとに皆様にお届けして
おります。毎回、課内で編集会議を開き、前号発行からの3ヶ月間を振り返り、主に、そ
の間に開催されたイベントなどの中から紙面に取り上げるトピックスを選んでいきます。
今回は、いよいよ半年後に開幕を迎える大阪・関西万博関連のトピックスが中心となっ
ていますが、今回は、どんなトピックスが紙面を飾るか、お楽しみにしていただきたい
と思います。

編集会議の振り返りの中で、連日の日本人選手の活躍に胸を躍らせたパリオリンピッ
ク・パラリンピックのことが話題になりました。それとともに、4年前はどうだったん
だろうと、ふと考えました。4年前のオリンピック・パラリンピックは東京での開催だ
ったはず。しかし、年初からの新型コロナウイルス感染症の流行で、翌年に延期。春夏
の甲子園は中止され、外出自粛など日常生活が制約される、世の中が重苦しい空気に包
まれた時期でした。

4年後のロサンゼルス大会の時、2024年はどういう年だったと振り返られるでし
ょうか。能登半島の地震、水害、これまでにない猛暑、令和の米騒動、大谷翔平選手の50-
50達成等々、今年もいろいろとありましたが、残すところあと2ヶ月余り。皆様、寒
暖差の大きい季節、どうぞ、ご自愛ください。

今回も最後までご覧いただき、ありがとうございました。

知事室 秘書課長 津井田 一陽



★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版
ならではの美しい画面を楽しんでいただけますので、是非ご覧ください。

和歌山だよりに対する御意見・御感想をお聞かせください。また、皆様がお持ちの和歌
山に関する情報を御提供ください。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと
考えています。（下記のFAX（様式自由）、E-Mail等でお願ひします。）

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp



県ホームページ
QRコード



ふるさと和歌山
応援サイト QRコード

2024年（令和6年） NO.184

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2026

*個人情報につきましては、「和歌山だより」
の発行以外の目的には、使用いたしません。

